

国際移民アウトルック 2015 について

2015年9月22日

OECD 日本政府代表部

1. 国際移民アウトルックとは

- (1) OECD 加盟国における移民の動きを分析した刊行物。
- (2) 分析と併せ、加盟各国の移民に関する統計を整理。
- (3) 主に前年の動きを整理した年次刊行物であり、2015年版は39回目の刊行となる。
(代表部注：OECDは、「外国国籍の者の移動」という意味で「移民」の語を用いており、その統計上の定義は国によって異なります。)

2. 2015年版の公表日

2015年9月22日

3. 主な概要（エグゼクティブサマリー「Main findings」より）

—移民は全体として増加しており、危機以前の水準に回復した

- ・OECD 加盟国における国外出生人口は2013年で1.17億人となり、2000年より3500万人（40%）増加している。
- ・2014年の速報値では、OECD 加盟国への永住移民の入国人数は430万人となり、2013年と比べ6%増加している。加えて、短期移民はほとんどのカテゴリで増加している。
- ・中国とインドは依然として重要な移民送出国であるが、EU内移動の増加により、ポーランドとルーマニアもまた重要である。
- ・OECD 加盟国における難民申請者は2014年に歴史的な高水準に達し、2015年も引き続き増加する。

—移民の労働市場の成果についての好ましい兆候

- ・全体として、OECD 地域における移民の平均就業率は、2011～14年で1.3%ポイント増加した一方、自国民の就業率の増加は0.5%ポイントであった。
(代表部注：OECD 平均の就業率は、依然として自国民の方が移民より高くなっています。)
- ・失業率は大きく変わっておらず、自国出生者より外国出生者の方が失業率は依然として平均3.3%ポイント高い。
- ・OECD 地域において、移民の長期失業者の増加は近時減速したが、未だに移民の労働力の6%となっている。

—医療労働者移民の増加する重要性

- ・医師に占める外国出生者の割合はほとんどの国で伸びており、2000/01年と2010/11年の間で平均19.5%から22%以上となっている（23カ国の平均）。一方、看護師は、

同期間で11%から14.5%となっている（22カ国の平均）。

- ・2010/11年では、OECD加盟国で職業に従事している外国出生の医師と看護師は、全世界の保健医療従事者の約5%である。
- ・2012/14年では、外国で訓練を受けた医師と看護師はそれぞれ17%と6%を占める。医師はデータが利用できる26カ国の保健医療従事者の数に占める割合であり、看護師は24カ国の数に占める割合である。
- ・2000/01年と2010/11年の間に、保健医療従事者が深刻に不足している国からOECD加盟国に移ってきた医師と看護師の数は80%以上増加した。